

令和7年度

熊本県立大学 文学部 日本語日本文学科

一般選抜（前期日程） 個別学力検査

国語

問題用紙

注意 解答は、すべて別紙**解答用紙**に記入すること。
すべての解答用紙に受験番号、受験者氏名
を記入すること。

なお、**一**～**四**の大問ごとに解答用紙が
かわるので、解答用紙をまちがえないように
注意すること。

試験終了後、この冊子は持ち帰ってください。

末尾に問題訂正の内容を添付しています。
(当日配付または板書により周知したもの。)

一

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(日野啓三『都市という新しい自然』読売新聞社、一九八八年八月)

注 キリコ⇨イタリアの画家。

デルヴォー⇨ベルギーの画家。

問一 二重傍線部 a、e のカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ改めよ。

問二 傍線部 A について、東京が「無くなってしまった」のは戦時下の火災によるが、その火災の直接的要因となった出来事を二字の漢語で答えよ。

問三 傍線部 B について、筆者が「無機質」で「コウリョウ」とした光景を懐かしく感じるのはなぜか。四〇字以内で答えよ。

問四 空欄 X に補うべき最も適切な語を次から一つ選び、符号で答えよ。

ア 嫌悪感 イ 焦燥感 ウ 親近感 エ 幸福感

問五 傍線部 C について、筆者の定義に従って、本文中の四つの波線部のうち「都会」に関連するものには○を、「都市」に関するものには×を付け。

問六 傍線部Dについて、この場所で、かつてと同様に「涙のようなものがにじみかけた」とは、筆者にとってどのようなことを意味するか。その説明として最も適切なものを次から一つ選び、符号で答えよ。

ア 焼跡であった東京と現在の無機質な都市としての東京に類似性を感じるということ。

イ かつての戦争体験は、自身の精神に癒やしがたい傷を残したのだということ。

ウ 戦時下と同様に都市東京は息苦しさを感じる場所となってしまったということ。

エ かつての東京に感じられたぬくもりが、現在の東京にも残されていたということ。

問七 傍線部Eについて、「狎れ合い（馴れ合い）」という語の一般的な意味を答えよ。

問八 傍線部Fについて、廃墟（焼跡）と都市それぞれを構成するものと、それらに共通する要素をまとめ、その要素が

喚起する「世界の本来のイメージ」とはどのようなものか述べよ。ただし字数は一八〇字以内とする。

二

次の文章は、近代の文法学者である山田孝雄の著書『日本文法学概論』の一部である。これを読んで、後の問に答えよ。
なお、漢字は新字体にあらためた。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(山田孝雄『日本文法学概論』宝文館、昭和十一年五月)

問一 波線部ア～ウの動詞について、例に従って活用の種類および活用形を答えよ。

(例、ラ行下二段活用・連体形)

問二 波線部A～Eの「る」について、単語である場合は原形(終止形)と活用形を述べ、単語の一部(活用語尾)である場合はどのような単語の一部であるかを述べよ。

問三 波線部①～③の「し」をそれぞれ文法的に説明せよ。活用語の場合は原形(終止形)と活用形を示すこと。

問四 二重波線部a～cの「ば」について、用法の異なるものを一つ見つけ、接続する動詞にも触れた上で、他の用法と何が違うのかを説明せよ。

問五 本文中から受身の意味(受動態)で用いられている助動詞をすべて見つけ出し、本文で用いられている順にそれらの助動詞の活用形のみをすべて書け。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

注 光明山 〓現在の京都府相良郡山城町にあった寺。東大寺の末寺。

日吉 〓現在の滋賀県大津市坂本にある日吉大社の祭神。山王権現ともいう。

衆生 〓現世を生きるすべての人々。

西方の行者 〓西方極楽浄土への往生を願う修行者。

維摩経 〓仏教経典の一つ。維摩詰所説経ともいう。主人公である維摩詰ゆいまきつが菩薩たちと問答を重ね、旧仏教を批判

しつつ、在家信者の悟りへの実践を示す内容。

法華経 〓仏教において重要な経典の一つ。妙法蓮華経のこと。

寿量品 〓法華経の中の一章。韻文体で仏徳やその教えを説く。

偈 〓経典の中の韻文で述べられた部分のこと。

八幡大菩薩 〓八幡宮の祭神を仏教の側から見た称。八幡神の本来の姿は、菩薩であるという理解による。

二世 〓現世と来世。

問一 傍線部①・②を現代語訳せよ。

問二 空欄 **X** **Y** **Z** には、助動詞「べし」が入る。適切に活用させて入れよ。また、文脈に即した意味を次から一つ選び、符号で答えよ。

ア 推量 イ 意志 ウ 適当 エ 可能 オ 命令

問三 傍線部Aについて、なぜ僧はそのように思ったのか。理由を二つ答えよ。

問四 傍線部Bの解釈として最も適切なものを次から一つ選び、符号で答えよ。

ア 私(尼)は汝(僧)をいい加減にはできないので、往生のための方法をどのように教えたらよいものか。

イ 私(尼)がいい加減な気持ちであっても、往生のための方法を問われたのだから教えなければならぬだろう。

ウ 汝(僧)がいい加減な気持ちであっても、往生のための方法を問われたのだから教えなければならぬ。

エ 汝(僧)がいい加減なことを言っても、私(尼)は我慢して往生のための方法を教えなければならぬ。

問五 傍線部Cと同じ意味で使われている語句を本文から四文字で抜き出せ。

問六 傍線部Dについて、誰が誰に対して「かたじけなく」感じているのかを答えよ。

問七 次の選択肢から『十訓抄』と同時代の作品をすべて選び、符号で答えよ。

ア 吾妻鏡 イ 雨月物語 ウ 今昔物語集 エ 新古今和歌集 オ 堤中納言物語

四

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の都合上、送り仮名・返り点を省略した箇所がある。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

注 婁東 地名。現在の蘇州近隣地区。

藍縷 BOROBOROの衣服。

菘豆 緑豆。

帛 絹織物。

睥睨 横目で見る。

杪 梢。

善相者 人相を占う者。

浸淫 染み込み広がる。

司命 命運を司る星神。

殆有所遇 ほぼ時勢にかない、出世するだろう。

軋轉 うねり、転がる。

展側 のたうち回る。

広陵 地名。現在の揚州近隣地区。

問一 傍線部①～④の訓読みを送り仮名も含めてひらがなで書け（現代仮名遣いでよい）。

問二 傍線部Aを現代語訳せよ。

問三 傍線部Bの正しい現代語訳として、最も適切なものを次から一つ選び、番号で答えよ。

(1) 枯葉を波間に投げ込んだように、お前が起こした波がいつまでも静まらないのが心配なのだ。

(2) 枯葉が波間に落ちたように、お前がふらふらとして落ち着かないのが心配なのだ。

(3) 枯葉が波間に投げ込まれたように、お前がそれをしっかりと握っていないのが心配なのだ。

問四 傍線部Cを書き下し文にせよ。

問五 傍線部Dについて、「土人某」はなぜこのような行動をとったのか、その理由を述べよ。

問題の訂正

文学部 日本語日本文学科

国語

【問題訂正】

○問題用紙 3ページ 一 の問三について、左記の傍線部のとおり文言を訂正します。

誤) 四〇字以内で答えよ。

正) 四〇字以内(句読点含む)で答えよ。

○問題用紙 4ページ 一 の問八について、左記の傍線部のとおり文言を訂正します。

誤) ただし字数は一八〇字以内とする。

正) ただし字数は一八〇字以内(句読点含む)とする。